

59

0460

決裁指定

連帶
課名

大正八年四月十六日 大正八年四月廿一日 大正八年四月廿四日 大正八年四月廿七日 大正八年四月三十日 大正八年五月三日 大正八年五月六日 大正八年五月九日 大正八年五月十二日 大正八年五月十五日 大正八年五月十八日 大正八年五月廿一日 大正八年五月廿四日 大正八年五月廿七日 大正八年五月三十日 大正八年六月二日 大正八年六月五日 大正八年六月八日 大正八年六月十一日 大正八年六月十四日 大正八年六月十七日 大正八年六月二十日 大正八年六月廿三日 大正八年六月廿六日 大正八年六月廿九日 大正八年七月二日 大正八年七月五日 大正八年七月八日 大正八年七月十一日 大正八年七月十四日 大正八年七月十七日 大正八年七月二十日 大正八年七月廿三日 大正八年七月廿六日 大正八年七月廿九日 大正八年八月二日 大正八年八月五日 大正八年八月八日 大正八年八月十一日 大正八年八月十四日 大正八年八月十七日 大正八年八月二十日 大正八年八月廿三日 大正八年八月廿六日 大正八年八月廿九日 大正八年九月一日 大正八年九月四日 大正八年九月七日 大正八年九月十日 大正八年九月十三日 大正八年九月十六日 大正八年九月十九日 大正八年九月廿二日 大正八年九月廿五日 大正八年九月廿八日 大正八年十月一日 大正八年十月四日 大正八年十月七日 大正八年十月十日 大正八年十月十三日 大正八年十月十六日 大正八年十月十九日 大正八年十月廿二日 大正八年十月廿五日 大正八年十月廿八日 大正八年十月三十一日 大正八年十一月三日 大正八年十一月六日 大正八年十一月九日 大正八年十一月十二日 大正八年十一月十五日 大正八年十一月十八日 大正八年十一月廿一日 大正八年十一月廿四日 大正八年十一月廿七日 大正八年十一月三十日 大正八年十二月三日 大正八年十二月六日 大正八年十二月九日 大正八年十二月十二日 大正八年十二月十五日 大正八年十二月十八日 大正八年十二月廿一日 大正八年十二月廿四日 大正八年十二月廿七日 大正八年十二月三十日		銃艇第二六號 局長 主務局長 主務課長 主務課員 審案 記名	事務局長 主務課長 主務課員	次官 高級副官 主計 主務副官	改受第五一〇号 瓦斯彈發射試驗實施ノ件 臨時毒瓦斯調査委員	決行後回覽課名
---	--	--	----------------------	--------------------------	-------------------------------------	---------

T260

申請指
通会

四月三日





毒調案第七號

五—〇

瓦斯彈發射試驗實施ノ件申請

大正八年四月十五日

陸軍大臣田中義一殿

別冊要領：基キ瓦斯彈發射試驗ヲ實施致度候
付認可相成度候也

陸軍 二六
大正八年四月十六日



陸

軍

8760

輕迫撃砲試製瓦斯彈準備試驗要領

大正八年一月一日
陸軍技術審査部印刷

輕迫撃砲試製瓦斯彈準備試驗要領

第一、試験ノ目的

輕迫撃砲試製瓦斯彈三種ニ就テ試験ヲ行ヒ其ノ適否及優劣ヲ判定セントス

附記

本試験ノ機會ヲ利用シ三八式野砲瓦斯彈炸藥量ノ適否ヲ實験セントス

第二、供試火砲及彈藥火具並器材

一、火砲

輕迫撃砲

三八式野砲

二、門 (審査新保管ノモノ)

一、門 (審査新保管ノモノ)

六 彈丸

輕迫撃砲試製瓦斯彈

第一號(甲)及(乙)

彈丸上部ノ炸藥室ヲ有シ内部ニ液筒ヲ収ルモノニシテ

(甲)ハ炸藥量〇尅一四〇ヲ號液ニ尅五〇〇(乙)ハ炸藥量〇

尅二四〇ヲ號液ニ尅三〇〇ヲ填實スルモノトス

輕迫撃砲試製瓦斯彈 第一號

中心炸藥式ノ炸藥室ヲ有シ内部ニ液筒ヲ有セス彈底

ニ注液孔ヲ有スルモノニシテ炸藥量〇尅九四ヲ號四尅

〇四〇ヲ填實スルモノ

三八式野砲試製瓦斯彈

採用ニ決定シタル分

9260

三、液

臭素

擬製毒液(墨汁若ハ紅加ラ汁)

四、藥筒

輕迫擊砲藥筒

用ウ

但ニ裝藥ニ無煙小銃藥約三五瓦點火藥小粒藥五瓦ヲ

三八式野砲藥筒

現制ノモノ

五、靜止破裂用信管

三年式複働信管ヲ修正ス

六、瓦斯濃度試験器

軍醫學校ニ於テ準備ス

七、効力試験用動物

第三、試験、實施方法

一、試験ハ四月下旬ヨリ五月下旬ヨリ實施ス 試験、場所ハ

風少ク危害ノ顧慮ナキ演習場ヲ選定セルモノトス

二、輕迫撃砲試験製瓦斯彈試験

一、先ッ代用液ヲ用ヒテ發射試験ヲ行ヒ彈丸ノ破裂及液

飛散ノ景況ヲ調査シ適當ナル彈種及炸藥量ヲ撰定ス

又、前項ノ試験ニ於テ良好ト認メタル若干種ノ彈丸ニ毒液ヲ

填實シ發射試験ヲ行ヒ爆煙ノ景況及彈丸破片ノ景況ヲ

調査ス

又毒液ヲ填實シタル彈丸ヲ實際彈著ノ場合ト同一姿勢ト為シ靜止破裂ヲ行ヒ瓦斯ノ濃度及動物ニ對スル効力ヲ調査ス(附圖参照)

右調査ノ結果ニ基キ適當ナル彈種及炸藥量ヲ決定ス

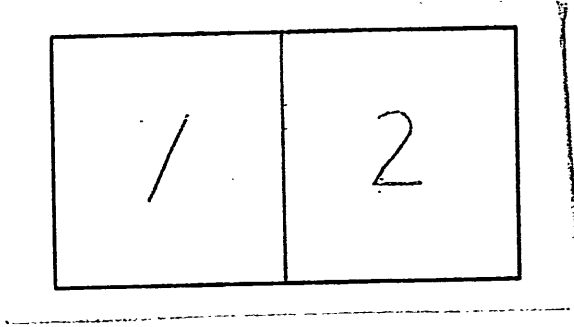


3. 前項ニ依リ決定シタル彈丸ヲ用キ天候良好ナル時ヲ選ビ稍多數發射ヲ行ヒ瓦斯濃度ヲ實測シ量ニ實施シタル野砲瓦斯彈ノ成績ト比較ス

以上ノ試験ヲ行フト同時ニ火工作業法及液填實法並射彈觀測ノ難易等ヲ調査スルモノトス

三、野砲試製瓦斯彈炸藥量ノ試験

野砲試射瓦斯彈ノ炸藥量ヲ増減シテ發射試験及静止破
裂ヲ行ヒ爆煙飛散ノ状況及瓦斯ノ濃度ニ依リ適當ナル炸
藥量ヲ判定ス
四、試験實施ノ豫定計画ハ附表ニ示スカ如シ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>10 年 10 月 23 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者</p> <p>上野英樹  </p>	

輕迫擊砲試製瓦斯彈試驗豫定計畫表

科目	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日	第七日	第八日	第九日
課目	諸準備	輕迫瓦斯彈 代用液試驗	輕迫瓦斯彈 發射試驗	輕迫瓦斯彈 破裂及瓦斯濃度測定	輕迫瓦斯彈 彈道試驗	輕迫瓦斯彈 射試驗及瓦斯濃度測定	野砲瓦斯 彈炸藥 試驗	豫備日	試驗成績調 査及歸片
種數	一彈藥、調製及射擊、計十備	無小輕迫 擊砲	無小輕迫 擊砲	無小輕迫 擊砲	無小輕迫 擊砲	無小輕迫 擊砲	無小輕迫 擊砲		
藥管	各品數量測定	小粒五 用	小粒五 用	小粒五 用	小粒五 用	小粒五 用	小粒五 用		
液		紅柄	紅柄	紅柄	紅柄	紅柄	紅柄		
壓		四	四	四	四	四	四		
五斯									
濃度									
測定									
摘									
要									

一、彈藥、調製及射擊、計十備
 二、射場、計十備
 三、各品數量測定

代用液飛散狀態ヲ明瞭ニ示スル
 少地ヲ選ビテ密着射ス
 射角ハ45°、60°、75°トシ各彈種發射後射
 擊藥量ノ適否ヲ試驗ス
 射角ハ45°、60°、75°トシ各彈種發射後本信
 管ニ發射機ハ信管一發氣ヲ發射ス
 發射機ノ適否ヲ試驗ス
 發射機ノ適否ヲ比較ス
 破片ノ量況ヲ調査ス

彈丸ハ實際際彈著シタル場合ト同一
 狀態ニ置キテトス
 附圖ニ示ス要領ニ依リ同時ニ工及五
 各十發ガ止破裂ニ行ヒ瓦斯ヲ捕
 集シ其濃度ヲ比較ス
 適當位置動物ノ配置上力ヲ調査ス
 豫備案録ニ六分筒ヲ準ニ彈丸ハ四回
 先發射ス
 45°、60°、75°四射角ヲ以テ發射シ假
 射表ヲ編成ス

前日試驗ニ依リタル瓦斯一三筒ニ使用ス
 之ヲ豫備備案録ニシテ要ス
 二門ヲ以テ先射ヲ行フ
 適當位置置ニ瓦斯捕集器ヲ裝置シ濃度
 ヲ測定ス
 要シテ動物試驗ヲ行フ
 煙藥量現制ニ減シ三分一減、彈丸右左發
 射スルニ依リ、米ノ距離發射ノ煙煙ノ
 量況ニ依リ優劣ヲ判定ス
 良好ト認メタル種炸藥若シテ發射同時
 ニ停止破裂ヲ行フ其ノ要領及調査事項
 ハ第四日ニ詳ス

一、風向風速ハ爲シ得ル限り正確ニ測定スルモノトス
 二、第六日第七日試驗ハ特ニ天候良好ナル日ヲ選ビテ實施スルモノトス之ヲ爲シ豫定ヲ
 續合セテ變更スルコトアルニ又天候不良ニシテ到底實施、見込ナキトハ試驗ヲ
 見合スコトアルニ

附表

<p>備考</p> <p>一 風向風速ハ為シ得ル限り正確ニ測定スルモノトス</p> <p>二 第六日第七日試験ハ特ニ天候良好ナル日ヲ選ビテ再實施スルモノトス之ヲ為豫定ヲ</p> <p>三 聯合七隊更スルコトアルハ又天候不良ニテ到底實施ノ見エナキトキハ試験ヲ</p> <p>見合スコトアルハニ</p>	第九日	第八日	第七日	第六日
	試験成績調	豫備日	野砲瓦斯 彈炸藥 量試驗	野砲瓦斯 射試驗及 瓦斯濃 度測定
			野砲 試驗 瓦斯 彈	全 右
			三〇	三〇 三〇
			通	右
			用破裂	輕迫 擊砲 信管
			素	臭
			測定	試驗 瓦斯 用ヲ
			濃度 用ヲ	試驗 瓦斯 用ヲ